頑　心

社団法人　日本詩吟学院岳風会　認可

神奈川　頑心会　発行

60年8月現在会員数	
逗子地区	175名
葉山地区	297名
大船地区	54名
（合計）	（526名）

60年8月号（157号）

発行者　根岸岳萃

編集　中村愛岳

惜別の吟

中村　幸岳

定年退職と同時に川越に転居して疎遠となっていた上司の奥さんから数年ぶりに葉書が届き「主人が肝臓を患い、今のところ心配ないのですが入院した。中村さんの事しきりに噂し、逢いたがっている様です」とのことで、早速所沢の病院に見舞った。

非常に喜んでくれ、一別以来の話をしたあと「ところで詩吟は今でもやっているのか」と聞くので「一生やるのであせらない故か仲々進歩しない」と答えたところ「是非聞かせてほしい」という。個室とはいえ病室で詩吟をとためらっていると「じっくり聞いてみたいんだ。小さな声でいいから聞かせてくれ」と言ってベッドの上に正座して静かに目を閉じている。

それではと日本讃歌をとりあげ、一日も早い全快を念じながら、静かに一節一節の間合を充分とって吟じたところ「ありがとう。詩吟はすばらしい芸術だ」といって目頭をおさえながら喜んでくれました。

私は千人の前で吟じたより嬉しく思った。「早く治してもう一度葉山へ行ってみたい」というので「退院したらお迎えにきます。森戸の海岸を一緒に散歩しましょう」と握手して別れた。それから一週間後にまさか訃報を聞くとは夢にも思わなかった。

〜〜〜〜〜　○　〜〜〜〜〜

「この前逢った時から五年位経つかなあー」といゝながら戦友が奥さんと一緒に突然訪れてくれた。かつて70数kgあったのにあまりのスマートさに驚いた。「腎臓を患い退院はできたけれど、まだ週に三回透析の為通院しているんだ」と言う。「洋服がみんなダブダブになってしまい参ったよ」と笑っていたが、私は笑えなかった。

盃を交すことができなくて、何のもてなしもできず心苦しく思っていたところ「詩吟を是非聞かせてくれ」という。それではと、愛岳が「金州城」を、そして私は「春望」を吟じた。庭に目をむけながらじっと聞いてくれ、吟じ終ったところ「おかげで気持が落ちついた。ありがとう」といわれ恐縮した。「早く元気になってくれ。それまでは戦友会の召集も待っているから…」そういって元気づけ握手をして別れた。六月二十七日のことだった。

それが七月十日見知らぬ人から電話をいただこうとは…。「私は病院の看護婦です。私から申しあげる筋ではないんですが…私も大変可愛がっていたゞいて、葉山に住

んでいると申したところ、葉山には戦友がいるといって、中村さんのこと色々話してくれたんです。先日お目にかゝったとか大変喜んでいられました。それなのにこんなに早く逝かれるとは…」と涙ぐんで知らせてくれました。告別式に出席したところ、花輪が七、八十はあったろうか…生前の巾広い活躍が偲ばれる盛儀でした。

亡くなられたお二人共、頑健で強力な指導力を持つ反面、よく気のつく心の暖かい方でした。詩はどこで吟ずべきものなんだろう。今ふとそんな想いにかられます。発表会では恥じらいながらやっていますが、たった一人であっても、じっくり聞いてもらった時、ほんとうによかったと思わずにはいられない。お二人の御冥福を心から祈ります。

碩心会秋期審査会について

と　き　9月29日(日)　9時40分受付開始
　　　　10時より実施
ところ　逗子市立図書館ホール
　　　　（審査室は担当者より指示します）

◇受付票の年令は十月一日付で正確に
◇審査料は支部ごとなるべく早く。
◇許証料は十月十日まで中村又は広瀬宅へ

梅雨空なんてなんのその

第十回 碩心会温習会盛会に終る

60年7月7日(日)逗子図書館ホールに於て行われました。この日うっとうしい梅雨空でしたが、場内はそれとはうらはらに、非常に活気のある盛会ぶりでした。

◇はじまる前から席は満席
◇役員の方々が各分野を責任もって動きまわる姿に碩心会の発展ぶりを感じました。
◇プロ番号(1)の真澄の子供ちゃん達が可愛らしく、元気な素晴らしい吟声がトップを飾ってくれました。
◇高齢の松和の武井桃泉さん、堀内Dの高梨誓風さん、逗子Aの金指萠風さん達の年を感じさせぬ元気な吟声に感動、私達も今後かくあるべきと泌々思いました。
◇堀内Dの三留岑風さん、会場係りとしてとびまわりながらの合間に、90才になるおふくろさんが聞きにくるということで母を案じ迎えのため、一階から三階を何回か上ったり下ったり…私は三留さん親子の情の深さを思い、頼山陽親子の姿とが瞼に重なって映るのでした。おふくろさんが「いつもやる人出ないネ」ですって。私の舞姿のことだそうで、とても嬉しかったです。
◇出番を待つ前の皆さんの緊張ぶり…その気持は純真で尊いと思います。大の男の方がブルブルふるえていらっしゃる。私達でさえ今だに緊張しますものネ。
◇合吟コンクールならぬ指導者吟詠を、採点していられた方が何人かいたとか…指導者も心して奮起せねばなりませんネ…。

おんしゅう会

真澄支部　池田　亜砂子
（四年生）

「いちばんにやるのよ」と先生に言われた時、うれしいなと思いました。

さてはじまります。人がいっぱい来ていることに気づいて「やった」と心の中で言いました。始めはちょっときんちょうしたけれど、わたしは「よし」とはをかみしめてふんばった。

美樹ちゃんと友香ちゃんと三人で大きな声を出しました。そして私は「れい」とマイクの前でいった。はくしゅがきこえた。

おわり

〜〜〜 ○ 〜〜〜

※図書館ホール近辺で、大声での吟練習について苦情が出ました。今後このような事は慎むことにきまりました。

温習会合吟コンクール

今回の合吟コンクールに20組が参加、日頃の研鑽ぶりを発揮されました。接戦の末左記のチームが入賞されました。

(1) 堀内F ・1268点
(2) 逗子A(男)・1246点
(3) 上　原 ・1221点
(4) 真　澄 ・1221点
(5) 風　早 ・1216点
(6) 桜山A ・1205点
(7) 滝の坂 ・1205点
(8) 長　柄 ・1200点
(9) 堀内D ・1200点
(10) 逗子A(女)・1199点

◇役員は開始前に点呼をすべきと思う。無断欠席があったり、又役割分担のため顔を憶えなくてはいけないと思うので。(そのためには各部門別なるべく同じグループの方がやりやすいと思うが如何?)

◇途中で帰ってしまった役員が何人かいたが最後まで責任を持つべきではないか。

(一役員)

副部長選出さる

総務副部長 { 総務担当…広瀬翔岳 / 庶務担当…村田静岳
教務副部長　矢嶋悦岳(新任)
企画副部長　綾部秋岳(〃)
逗子副地区長　松野宝岳(〃)

第41回神奈川県本部吟道大会

とき　60年9月16日(月)
ところ　海老名文化会館
(海老名駅(小田急小田原線・相模鉄道線)西口より徒歩5分)

(碩心会より出吟・演)

合吟	富士山	森田暁岳他19名
〃	爾霊山	千葉劒岳他37名
〃	生田に宿す	小峰桜風他43名
スライド吟詠	自訟	上村象風
合吟コンクール	生田に宿す	矢島佳山他九名
〃	常盤孤を抱くの図	重松由風他九名
独吟	千島慕情	伊藤峰風
〃	楓橋夜泊	村田静岳
〃	漫述	沼田洸岳
詩舞	祝賀の詩	舞 中村愛岳
		〃 岡安武風(六浦吟)
		〃 小形雄風
		吟 鈴木孝岳
		〃 矢嶋悦岳
独吟	塞下の曲	加藤岳相
〃	漫述	根岸岳峯
〃	絶句一題	松井岳洋

県本部主催

中国友好の旅に参加

碩心会より左記の方々が参加されます

加藤岳相　中村幸岳
{ 村田静岳　寺島　薫(義妹)
{ 後藤道風　後藤誠治(御主人)

華厳滝前合吟知同志

昭和六十年六月十七日

松和支部　宇都宮徳風作

観滝台上朗吟誰　欹耳老婆声未衰
不意和之娯合詠　九天望瀑李氏詩

華厳滝前に於いて合吟し同志を知る

観滝(かんろう)台上朗吟するは誰ぞ
耳を欹(そばだ)つれば老婆なれども未だ衰えず
意(おも)わずも之に和して合詠を娯しむ
九天望瀑李氏の詩(うた)

(禿象作)

右は宇都宮夫妻が日光見物の折、華厳滝前で秩父の方で、82才の御主人と一緒に日光見物にきた77才の孤山流吟歴五十年の老婦人にめぐり逢い、吟道を通じての心のふれあいの喜びを詠まれたものです。

練吟メモ

○律詩（律ともいう）には、五言律詩と七言律詩とがあり、いずれも八句からなっていることは前回説明ずみ。構成上から、一、二句を首（しゅ）（または起）聯（れん）、三、四句を頷（がん）（または前）聯、五、六句を頸（けい）（または後）聯、七、八句を尾（び）（または結）聯という。押韻は偶数句だけ。ただし、七律は一句にも押韻する。平仄は、絶句と同様厳守を要求されているが、ここでは説明を省略。

○さて、律詩の大きな特徴は、頷聯と頸聯が必ず対句（ついく）であるという決まりである。この二聯は、律詩の生命であって、ここが対句になっていないものは、律詩ではないといわれている。同じ句数（八句）で律詩でないとすると、種類は古詩ということになる。

○　春　望　杜　甫

○○○○○　○○○○○（首聯略）
感時花濺涙　恨別鳥驚心（対句）
烽火連三月　家書抵万金（対句）
○○○○○　○○○○○（尾聯略）

（対句の説明）

◇頷聯　感と恨（心に関する動詞）　時と別（抽象名詞）　花と鳥（物体名詞）　濺と驚（動作）　涙と心（名詞）

◇頸聯　烽火と家書（烽は火を、家は書を限定する名詞）　連と抵（説明語）　三と万（数詞）　月と金（名詞）

○杜甫は、中国で詩聖と称されているが、とくに律詩を得意とした。教本でしか接することのないわれわれでも、杜甫の律詩、ことに対句は、他の対句とくらべ素晴らしいと思う。対句の活用は、中国民の国民性から生まれたもの、と陳舜臣氏は指摘しているが、中国の華麗な対句に対し、日本の対句はまことに地味である。日本漢詩は、俳句もそうであるが、自然かつ簡素であることを良しとする国民性から、その歌い上げ方は当然中国漢詩とは相違する。日本的表現とでもいうのであろうか。

○新教本㈠漢詩の吟じ方三では、律の説明が省かれている。旧教本㈣で「律は絶句の承句と転句の間に対句が二句づつ入ったものと考えてその対句の味を生かして吟ずる心掛が必要である」と解説しているが、一体「対句の味を生かして吟ずる」とは、どういう吟法をいうのであろうか。

俳　句　　葉狩　明山

蚊を打ちて　無口の夫と灯の下に

（移　籍）

40黒崎李風　一色Bより逗子Aへ
154立沢御風　397芳谷六泉　578大山晃泉
667片岡房子　668松岡義則　以上5名　大船Aより逗子Bへ

（入　会）

709高橋俊子　逗子市逗子五－一三－一六
（銀　詠）(電)〇四六八－七一－六六〇〇
710田淵九壱　横浜市戸塚区和泉町三九二〇
（大船A）(電)〇四五－八〇三－七一三一

（退　会）

194加藤愛風（松　和）197宇都宮雅風（松　和）
201田中容風（松　和）321小池玲山（一色B）
507黒川玲子（桜山B）563藤本朝光（大船A）
620川村郁子（堀内G）673照井美代子（銀　詠）
697高橋　正（星　山）

夜が明けたと思うと、裏山から、周囲の木立から蝉しぐれが聞えてくる。時折高く鳴くカナカナとミンミン。そして空高くチュンチュンと小鳥のさえずり、そこへ山鳩の低音が入り、寝床の中でじっと耳をすませば、まさに自然の「夜明けの交響楽」。

今年は被爆四十年…テレビ、新聞でみる被爆の生々しさ、悲しさに、何とも胸が痛む。私は終戦の日、職場の外で、流れくる終戦勅語を聞いたが、あの日も蝉しぐれの聞える暑い日だった。戦没者の御冥福を祈る。